

鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第三〇号

2021.9.30
責任者
市川 麻美

九月三十日までの 緊急事態宣言で：

「第二回定期テスト」が、九月二十七日・二十八日の二日間で行われました。今回は五教科のみでしたが、これまでの短縮日課もあり、生徒の皆さんにとっては、きつと気が抜けない難しい時間だったのではないでしょうか。でもその中でよくがんばりました。

『逃げない、投げない、あきらめない』

プロボクシングの元世界三階級制覇王者、八重樫東（やえがしあきら）さんは、現役時代一



番の思い出として、「誰もが対戦を避けていた相手との試合に命の危険を感じ、生命保険の金額を上げて覚悟して望んだ」ことを挙げています。結果は敗戦でしたが、何発パンチをもらっても、打たれたら打ち返そうと懸命に立ち向かう姿に試合後も大声援が収まらなかつたそうです。「自分の試合を見たという人がいる限り、何度でも立ち上がる」「自分が誇れるのは、世界王者になれたことではなく、負けても立ち上がったこと」と話しています。

十月の学習活動発表会は例年より縮小した形にはなりませんが、今年度のこれまでの成果を発表できるように、とにかくできることを精一杯進めてください。

まだまだ、元通りの生活にはほど遠いと思います。「人と人との距離」はしっかりとって、密を避け、「心の距離」は是非とも密にして、「逃げない、投げない、あきらめない」気持ちを持っていきましょう。

後期生徒会役員選挙

九月十七日(金)、後期生徒会本部役員の立会演説会及び投票が行われました。感染症対策として、別室から画面を通じて行われる演説を各教室で聞くという形をとりました。



目の前に大勢の生徒がいる中での演説ではありませんでしたが、ステージオさながらの状態になった美術室で

は、各候補者・責任者とも緊張感をもって演説会に臨んでいました。

また、どの候補者の演説も、今後の真鶴中をどのようにしたいかを明確にしていたのが印象的でした。二年生中心の生徒会本部となりますが、今後も伝統を引き継ぎながら新しい真鶴中を創り出してほしいと思います。

投票は、実際の選挙で使用する投票箱を町から借り、本格的に行われました。公正・公平な投票を通じて、「民主主義」の一つの形を学べたのではないかと思います。

選挙を支えた選挙管理委員のみなさん、おつかれさまでした。



(選挙結果は裏面です。)



令和三年度 真鶴中学校 後期生徒会本部役員	会長	二年
	副会長	二年
	副会長	一年
	書記	二年
	書記	二年
	会計	二年
	会計	一年

道徳の時間から

各学年の道徳の時間の生徒の考え・感想等です。紙面の関係で題材は示しませんが、真中生の様々な見方・考え方に触れてみてください。

自分がやりたいことに向けての努力が大切だと思った。結果がどうなるかにこだわらず努力する過程が大切だと思った。伊調選手のように、勝ち負けにこだわらず自分の理想の試合、楽しめる試合を作るのが一番大切なことだと思った。

三年

周りと違う行動をして目立ってしまったり、周りの目が気になって周りに流されてしまうことがあり、自分の個性を出すことができなくなってしまう。そうなる後悔を残してしまおう。あのときこうすれば…となるくらいなら、自分は自分らしさを大切に、周りに合わせるだけでなく、個性を出したいと思います。

三年

この惑星を美しく再生するために：先進国では、運動不足やカロリーの過剰摂取によって肥満が多く問題になっている。：困っている人に手を差し伸べる必要があると思う。自分の国の平和だけではなく、全部の国が平和であるべきだ。

二年

この惑星を美しく再生するために：主権者（権力を持っている人）が、主体となって環境改善活動に取り組み。そうすることにより、地球のみんなが協力して食料問題や資源枯渇問題を改善していくことができると思った。

二年

満員のバスはすごく苦しいし、嫌な空気だから、赤ちゃん泣くのは仕方がない。「うるせー」「おりろ」などと思う人が少しでも減って、「大丈夫かな」「心配だな」と思う人が多くなればいいの、と思いました。

一年

一人の勇気ある行動や言葉が、他の人にも伝染して優しさが生まれるんだと思いました。

一年

第30回真鶴町絵画コンクール展

10月5日（火）～10月10日（日）まで真鶴町民センターにて展示されています。

教育長賞	1年	『THE 真鶴!』
佳作	3年	『教室』
佳作	3年	『三ツ石』
佳作	3年	『旅立ち』

幼小中連携のまど Vol.5

学習活動発表会に向けて 学習活動発表会担当

今日も、体育館から、歌声が聞こえてきます。2学期に入り、10月22日の学習活動発表会に向け、日ごとに合唱練習の熱が高まっているようです。

限られた環境で、思うように練習が進まないところもあるようですが、意外と生徒たちは、「新しい様式」に順応しているようで、できることに精一杯、取り組んでいます。

学習活動発表会は、コロナ前であれば、幼小中交流行事だったと聞いています。保護者も含めた「町をあげてのイベント」である学習活動発表会には、あたたかさをも感じます。

残念ながら、今年度も、「開かれた発表会」にすることができませんが、来年こそきっと…と強く願っています。

